令和８年度第１回大口町下水道事業経営審議会　議事要旨

日時　令和８年６月２３日（火）
午後２時００分から午後１５時００分
場所　大口町役場　３階第５委員会室

１　町長あいさつ
２　下水道使用料の改定について（諮問）
３　会長あいさつ
４　議事
(1)　令和 7 年度決算状況
（事務局）資料説明
（委員）不明水とは。
（事務局）管のひび割れによる地下水流入の他、誤接続による雨水の流入など、わからないので不明水という呼び方をしている。
（委員）不明水の量はどのように計るのか。
（事務局）水道メーターで計測した水量と大口町から愛知県の処理場に流入している水量の差が不明水となる。
（委員）資本的収支のグラフについて、これは非資金項目があるのでそれを勘案すると実はプラスマイナス 0 と言っているのか、単純に赤字ということなのか。
（事務局）基準外繰入金である、一般会計からの出資金が不足している部分です。
(2)　下水道事業の経営原則
（事務局）資料説明
（委員）計画について、100%の回収を目指すとあるが具体的なプランというのはどこで計画していくのか。
（事務局）経営戦略という長期的なプランがあり、今後の料金については経費回収率 100%を目指しながら町からプランを提示して、審議会で審議していただければと考えている。
（委員）前回の審議会のときに更新サイクル 75 年と仮定した場合の不足

分と、今回の基準外出資金が不足しているということか。どのようにみれば良いのか。

（事務局）今のところ事務局では、年間工事費を 1 億円から 1 億 5000 万円でシミュレーションをしている。正直 75 年サイクルは厳しいというのが現状。75 年までの予想はまだできておらず、10 年先までの予測を始めたところ。

（委員）有収率を見ると、大口が 74%ぐらいだが、扶桑町が 92%くらいの有収率になっている。整備を始めた時期と管種が違うから大口町の有収率が悪いというのは、使用している住民に責任は無いので、その責任を負わせるのはどうかと思う。不明水を減らすための財源はぜひ町のほうで賄っていただきたい。今後そういった検討もしていただけたらと思う。

（事務局）管種による違いも大きいが、他にも要素はある。細かく精査したわけでは無いが、大口町の左岸では集落が点在しているため、管渠延長に対する処理人口が少ない。また、地下水という面でも稲作地域の大口町と畑作地域の扶桑町では違いがある。これを受けながら、いろいろ検討していくべきかと思っている。

5　その他

今年度は今回含めて 4 回予定しており、次回の開催時期は令和 8 年 9 月を予定している。

議題については現行の使用料の状況と、料金改定の案も予定している。

以　　上